

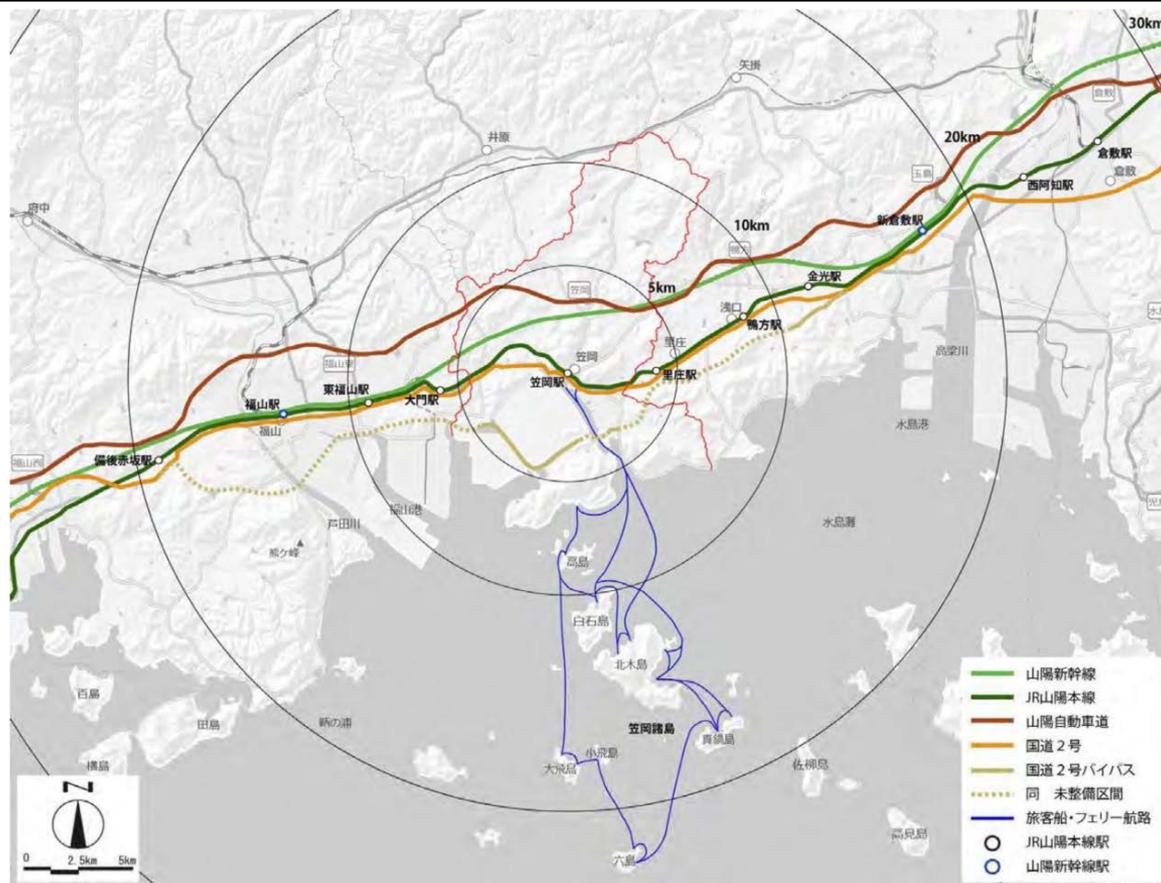
第1回 JR笠岡駅南北連絡施設等整備検討委員会
[参考資料①]

笠岡市 建設部 都市計画課

平成30年9月5日

笠岡市の位置と概要

- ・倉敷市と福山市という中核都市に挟まれ、井笠3市2町を加えた圏域総人口150万人を超えるエリアのほぼ中央に位置している
- ・JR山陽本線、山陽自動車道、国道2号、国道2号バイパスといった基幹的な交通軸が通っており、交通の要衝となっている
- ・大小約30の島々からなる笠岡諸島を有しており、海路で結ばれている



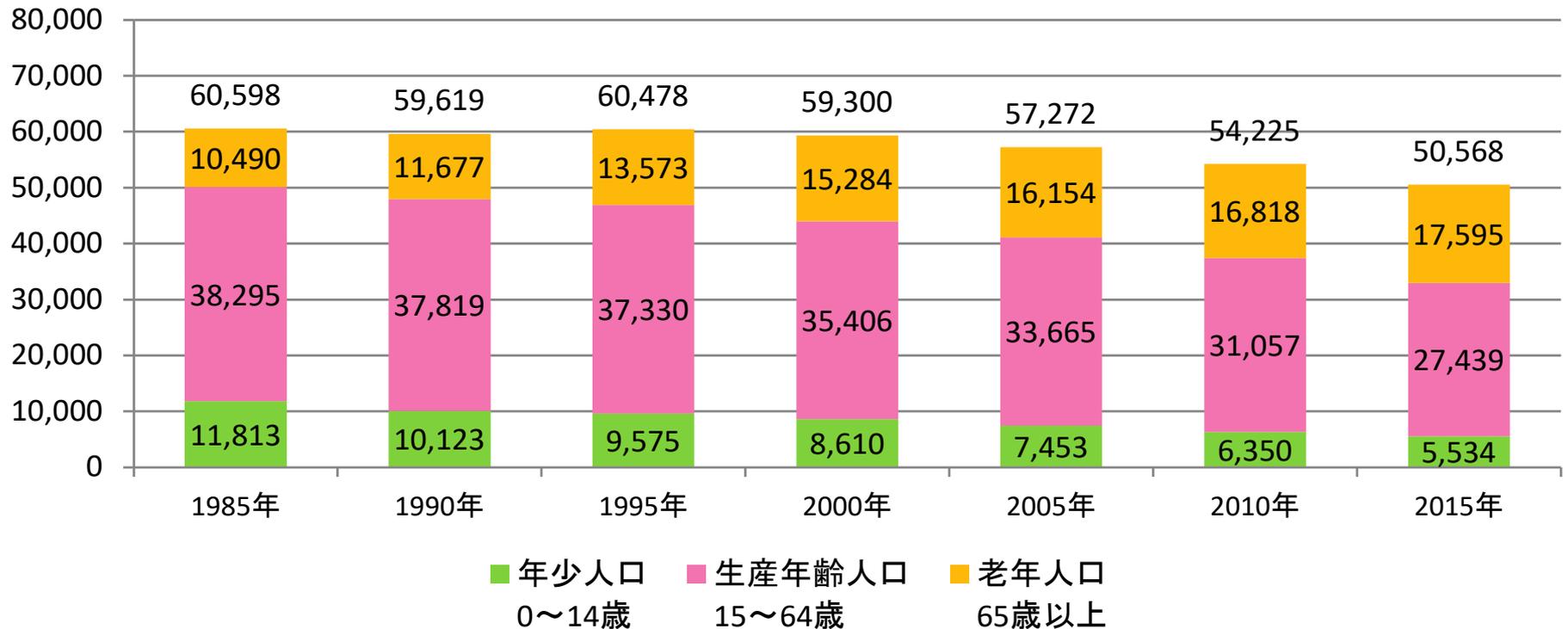
資料: JR笠岡駅周辺整備基本構想より

笠岡市の年齢別人口の推移

笠岡市の人口は1995年以降減少しており、2015年には50,568人と20年間で10,000人程度(16.8%)減少している。

年少人口と生産年齢人口は減少傾向にある一方、老年人口は増加傾向にある

笠岡市の人口推移

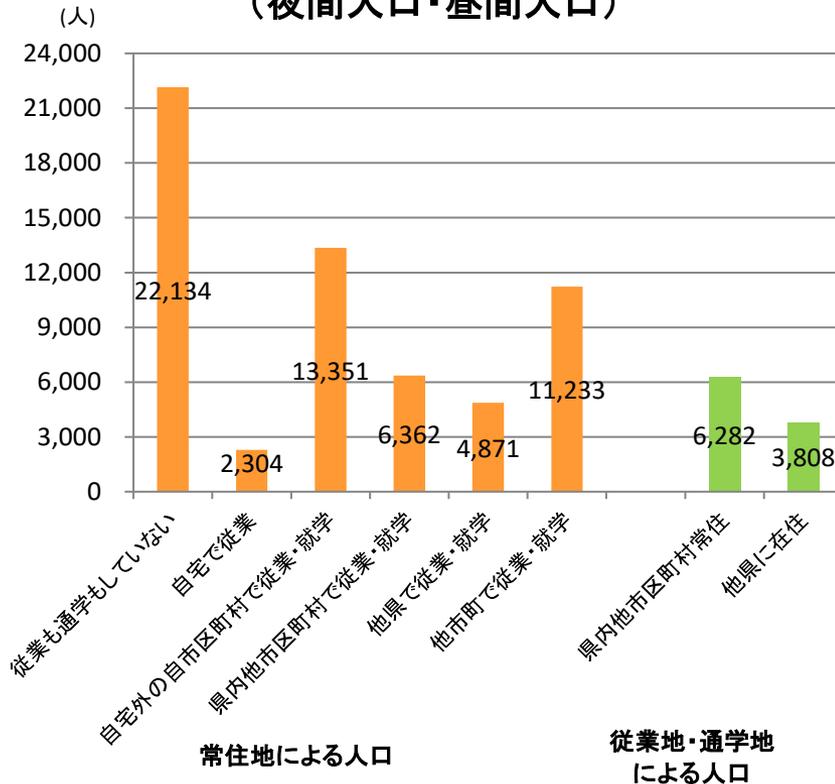


資料: 1985~2015 国勢調査より

笠岡市の通勤・通学の状況

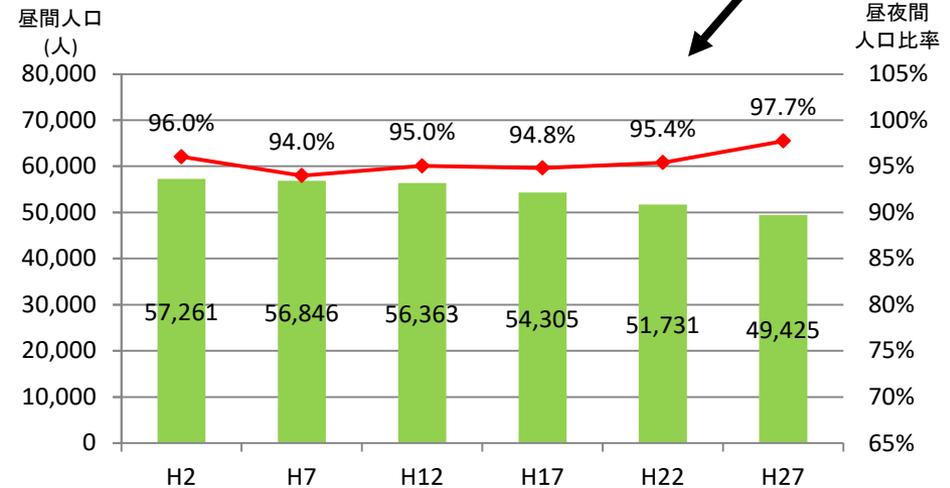
- ・平成2年から平成27年の昼間人口は97.7%～94.0%で増加傾向にあるものの、大きな変化は見られない
- ・通勤・通学で市外に出る割合は約46%で、約11,000人程度
- ・市内の学校・職場で従業・就学する人のうち、他市町村から来る割合は約43%で、約10,000人程度

常住地又は従業地による人口
(夜間人口・昼間人口)



市内常住地
昼夜間人口比率
97.7%(H27)

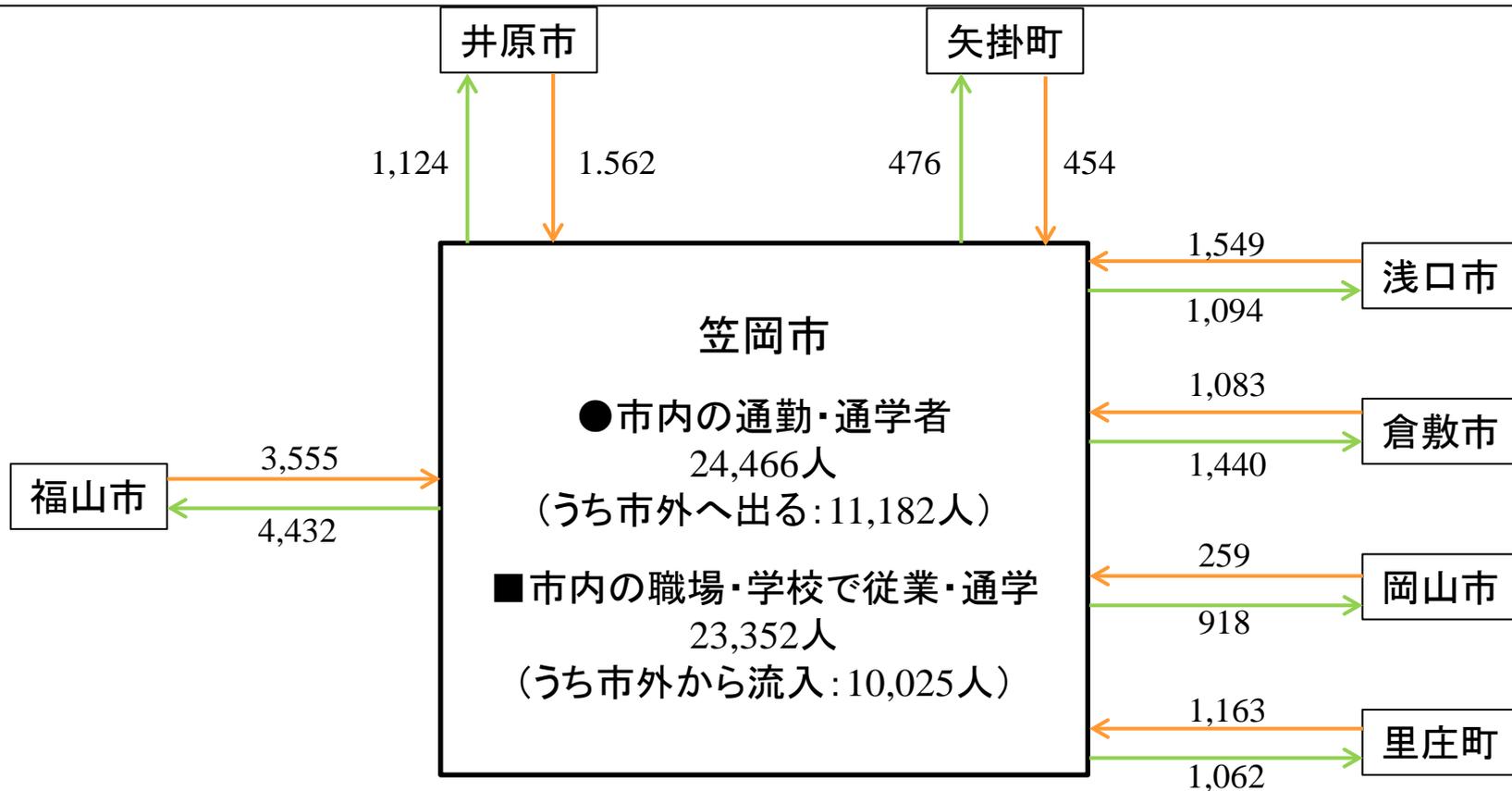
昼夜間人口比率



資料:2015 国勢調査より

笠岡市の通勤・通学の状況

- ・笠岡市は、県内の周辺自治体より隣県の福山市との流動が多くなっており、1日に約8000人（15歳以上、2015年時点）の通勤・通学者が往来している
- ・特に笠岡市の居住者は、福山市に通勤・通学する割合が高く、市外に通勤・通学する人の約4割を占めている

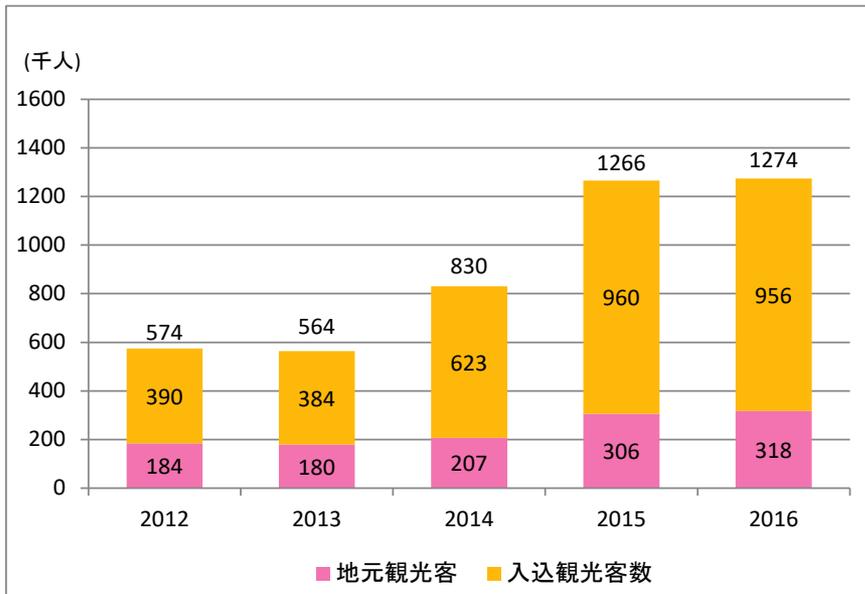


資料: 2015 国勢調査より

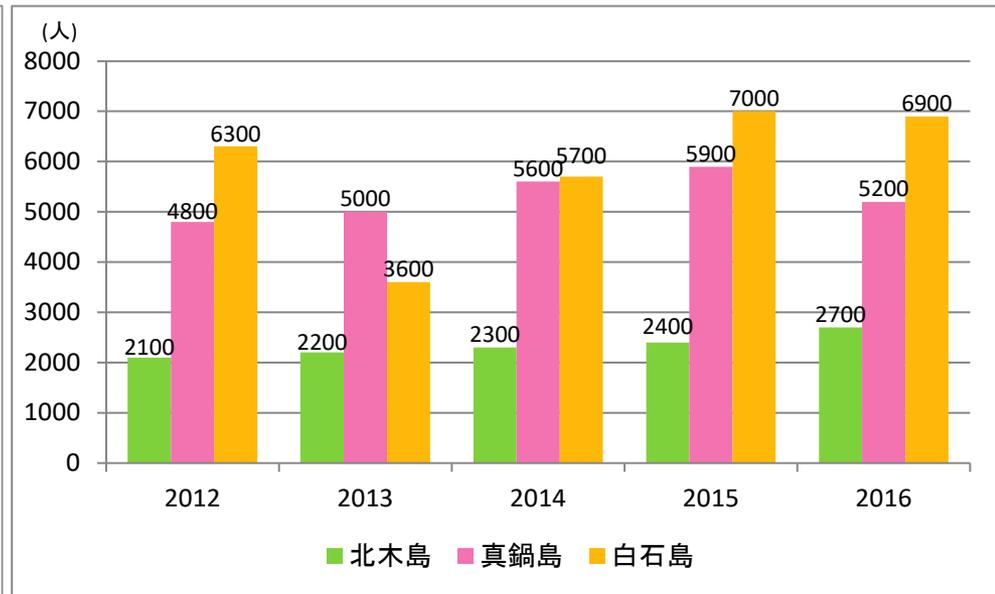
観光客数の推移

- ・笠岡市の観光客数は増加傾向にあり、観光入込客数は2016年で年間約96万人となっている。2012年と比較すると、約56万人増加している。
- ・笠岡諸島への観光入込客数も増加傾向にあり、白石島には年間約7000人が訪れている。

笠岡市観光客数の推移



笠岡諸島観光入込客数の推移



資料：H29統計かさおかより

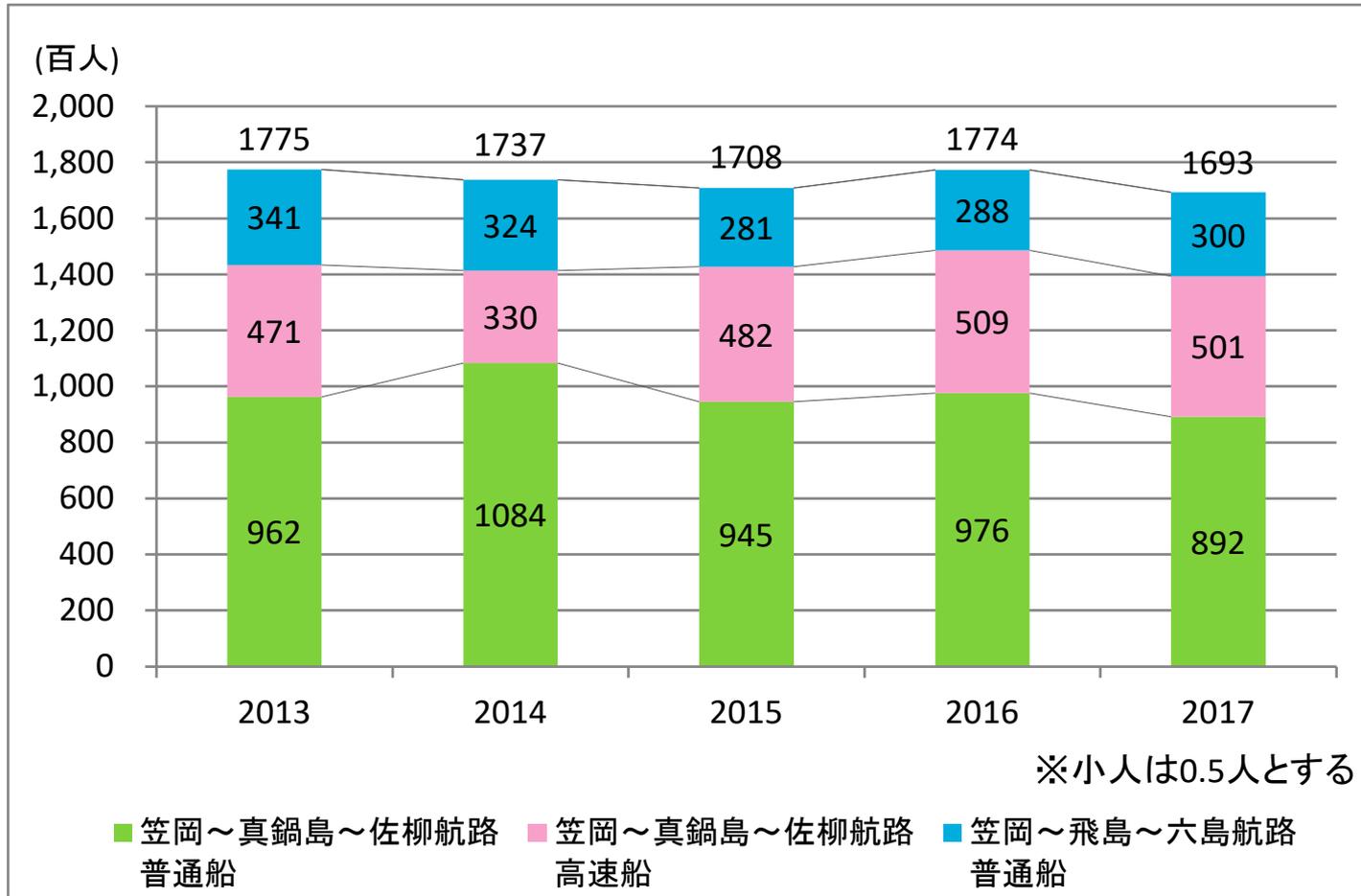
旅客船運航ルート図



資料: 笠岡市観光連盟HPより

笠岡港(三洋汽船)利用者数の推移

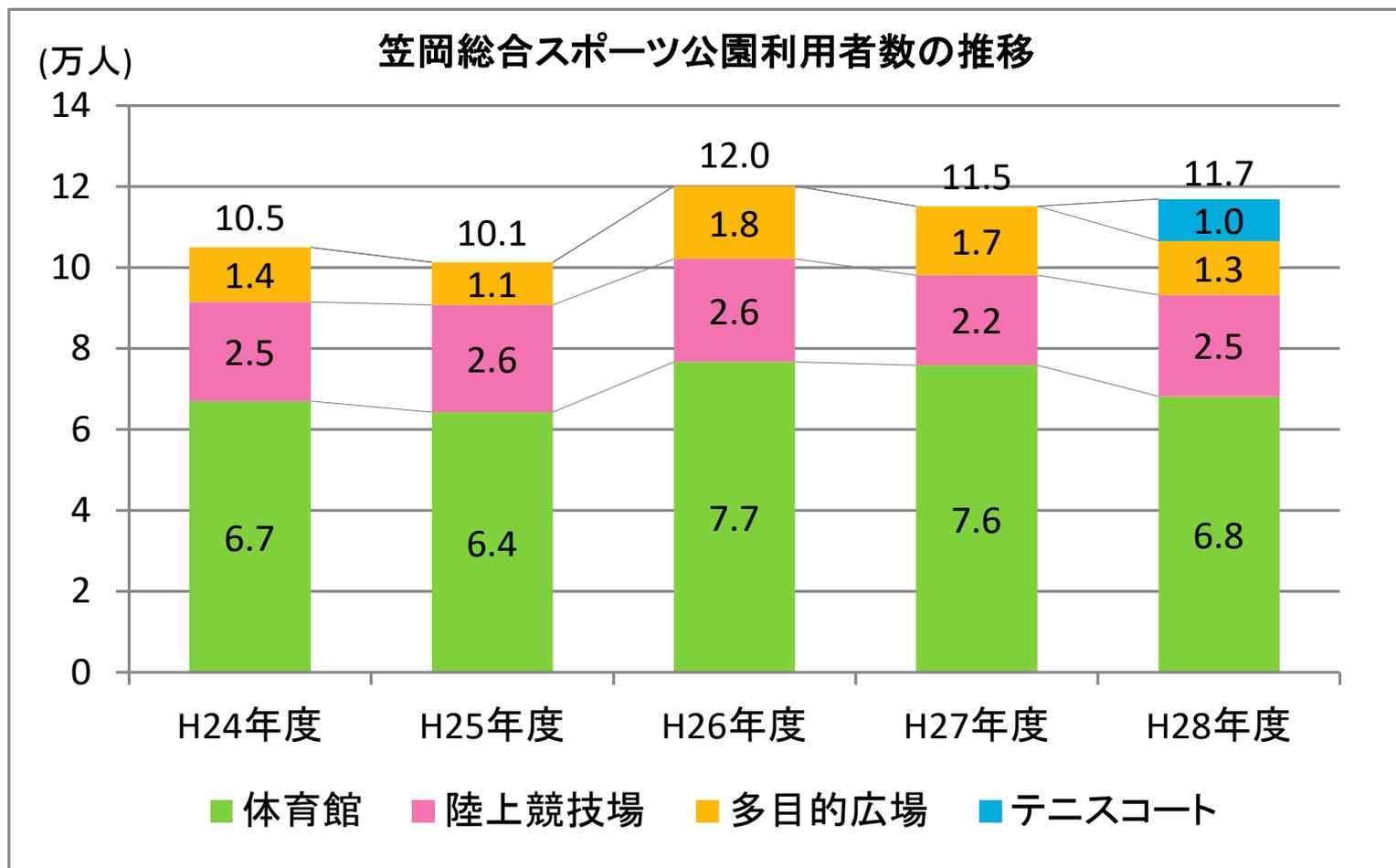
- ・笠岡港(三洋汽船)の利用客数は、2017年で年間約17万人(1日当たり約470人)
- ・2017年の利用客数は減少しているものの、全体の利用者数はほぼ横ばい傾向で推移している



資料: H29統計かさおかより

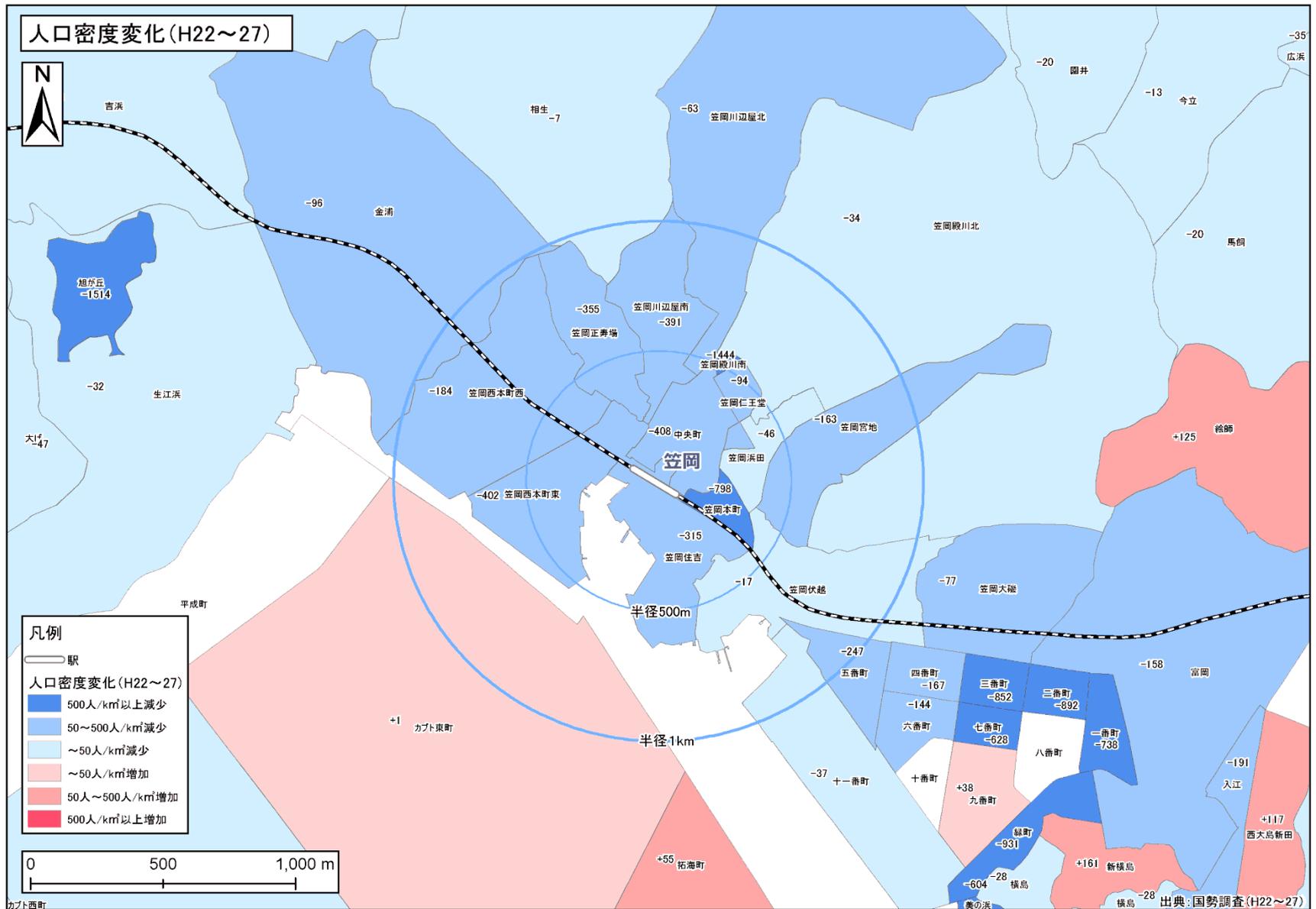
笠岡総合スポーツ公園利用者数

- ・笠岡総合スポーツ公園の体育施設利用者数は平成28年度で年間約11.7万人(1日当たり約320人)
- ・H28年度より新たにテニスコートが整備されており、年間利用者は約1万人



資料: H29統計かさおかより

笠岡駅周辺の人口密度の変化



笠岡駅周辺の都市計画上の位置付け

・笠岡市都市計画マスタープランでは、笠岡駅周辺は市全体の『都市拠点』、地域別構想においては『地域拠点』『交流活性化エリア』に位置付けられており、JR笠岡駅南北の一体化や、交通利便性の高い歩道整備等による交流機能の強化を図るとされている

中部地域のまちづくり構想

【地域の将来像】

市の中心として、より快適な居住環境と充実した都市機能を有するまち

【地域づくりの目標】

- ① 中心市街地と新市街地の連携とバランスある発展による、市の中心にふさわしいまちづくり
- ② 都市的土地利用の進展の可能性がある地区での、周辺の農地との調和に配慮した土地利用の実現
- ③ バリアフリー化等の先進的な取組による、だれもが安心して安全にくらせるまちづくり

凡 例	
●	地域拠点
○	地区拠点
■	専用住宅系市街地
■	住宅系市街地
■	商業系市街地
■	沿道商業業務地
■	工業地
■	自然景観保全地
■	自然系緑地
■	公園・レクリエーション地
■	既存集落地
■	農業地
■	環境共生エリア
■	交流活性化エリア
■	都市文化エリア
■	福祉環境共生エリア
—	広域幹線道路
—	地域幹線道路
—	地区主要道路
—	鉄道 (JR)
●	地域資源 (歴史・文化)
●	地域資源 (自然)

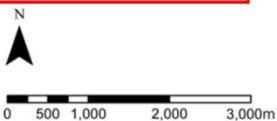
○住民の協力によるすぐれた住環境の保全

○駅南北の一体化による回遊性の向上とにぎわい空間の創出
○交通拠点としての機能充実

○笠岡市の中心となる行政・教育・文化・商業・業務・情報・サービス拠点形成
○JR笠岡駅周辺との連携強化
○都市機能の集積を活かした、新しい生活・文化の拠点形成

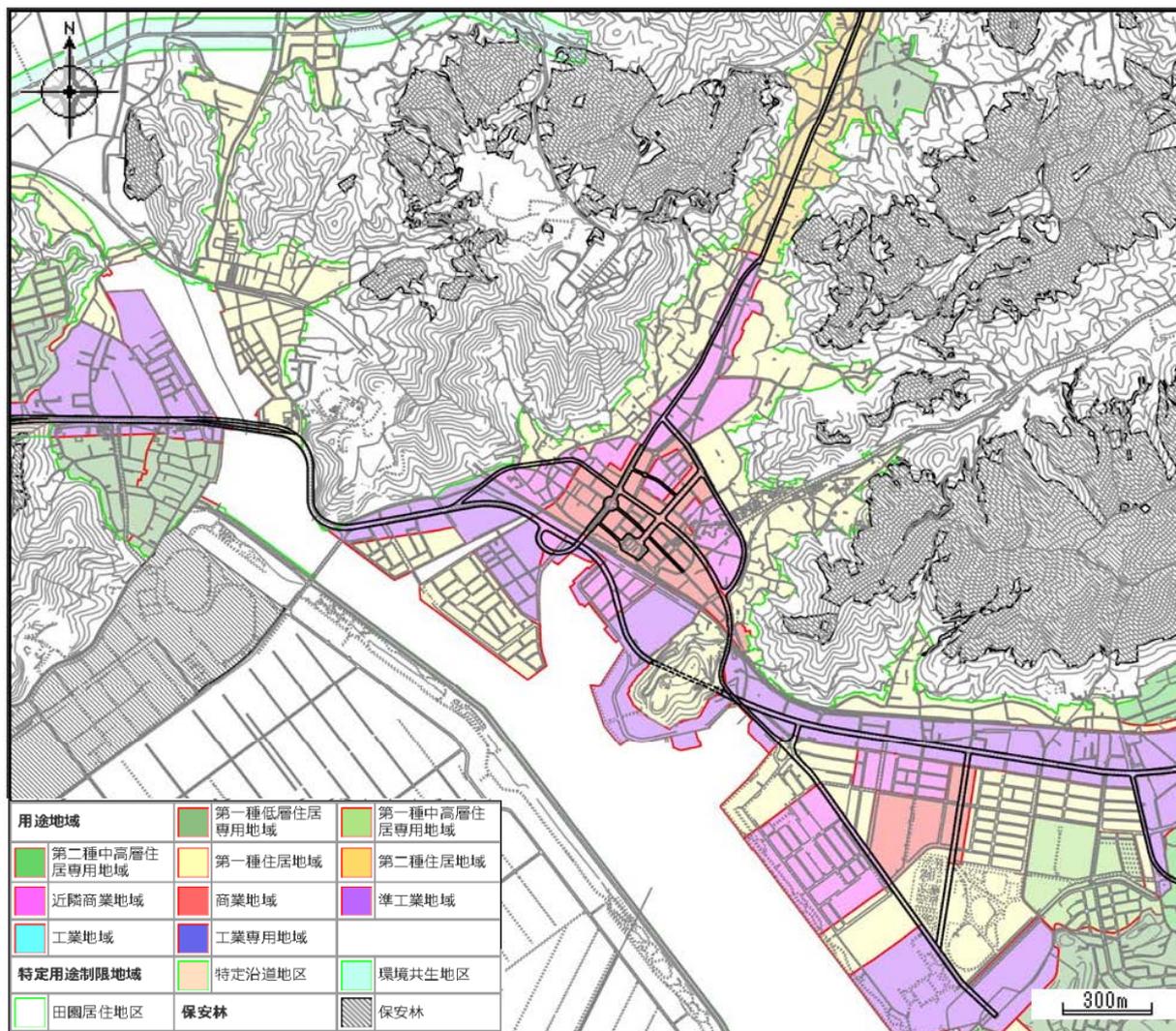
○周辺環境に配慮した土地利用の誘導
○生活利便施設等の適正な立地誘導
○自然環境や富農環境に配慮した、新規定住者や住み替え需要に対応する居住環境づくり

○医療・福祉施設周辺ので環境整備



笠岡駅周辺の都市計画上の位置付け

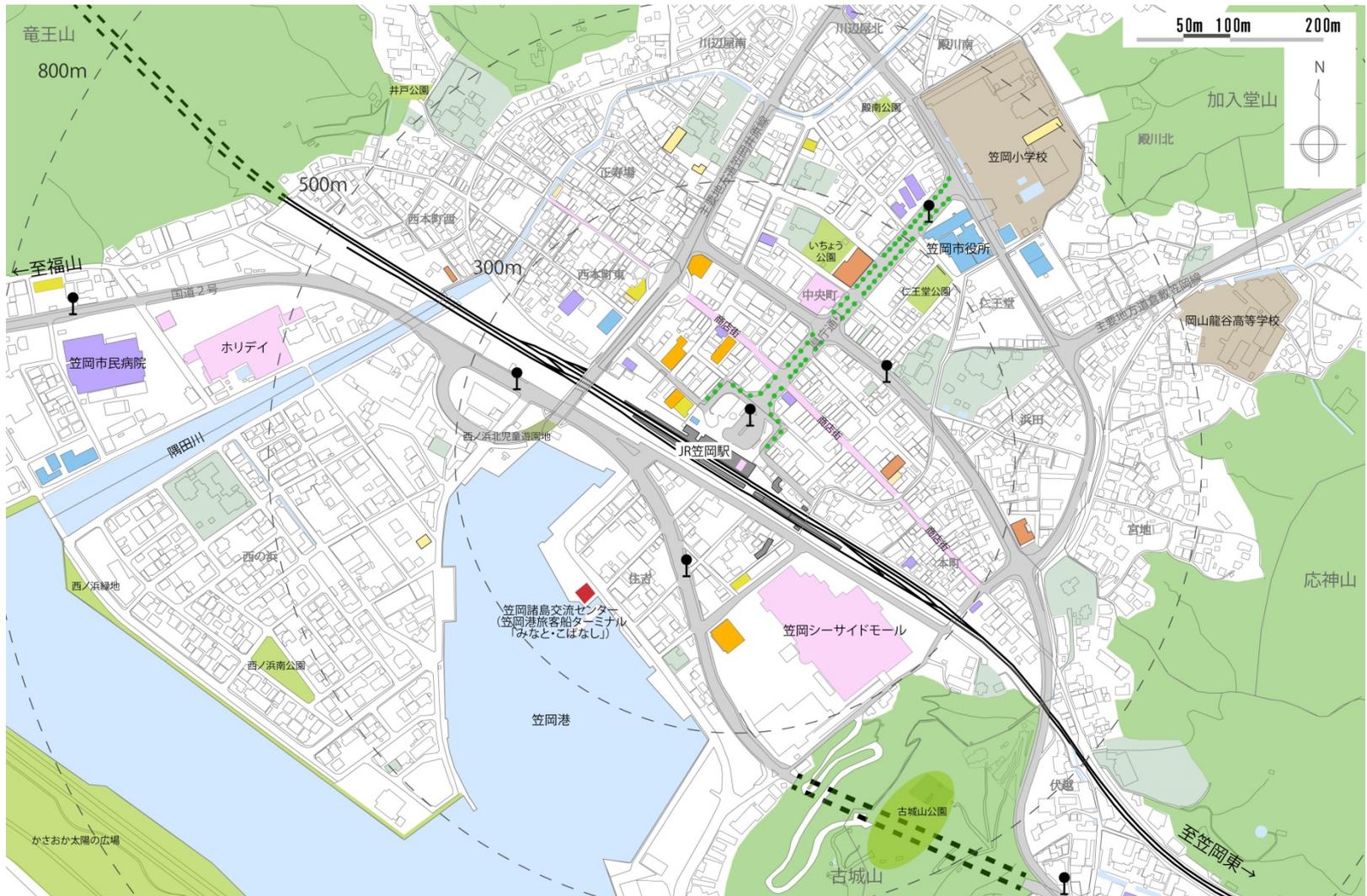
- ・笠岡駅北側の駅前広場及び周辺は商業地域である。駅南側は近隣商業地域と準工業地域となっている



資料:笠岡市統合型GISより

笠岡駅周辺の主要施設

・駅から800m圏内の主要施設は、駅北側には笠岡市役所や岡山龍谷高校、駅南側には笠岡港や笠岡市民病院などが位置する



資料: JR笠岡駅周辺整備基本構想より

笠岡駅周辺の資源と課題

・コンパクトなエリアに自然資源や歴史文化資源、市内の主要施設が集積している

資源① 山や海に囲まれ、歴史文化資源、観光資源、主要施設が本エリア内、駅500m圏内にコンパクトに集積

笠岡市民病院



笠岡市役所



笠岡港



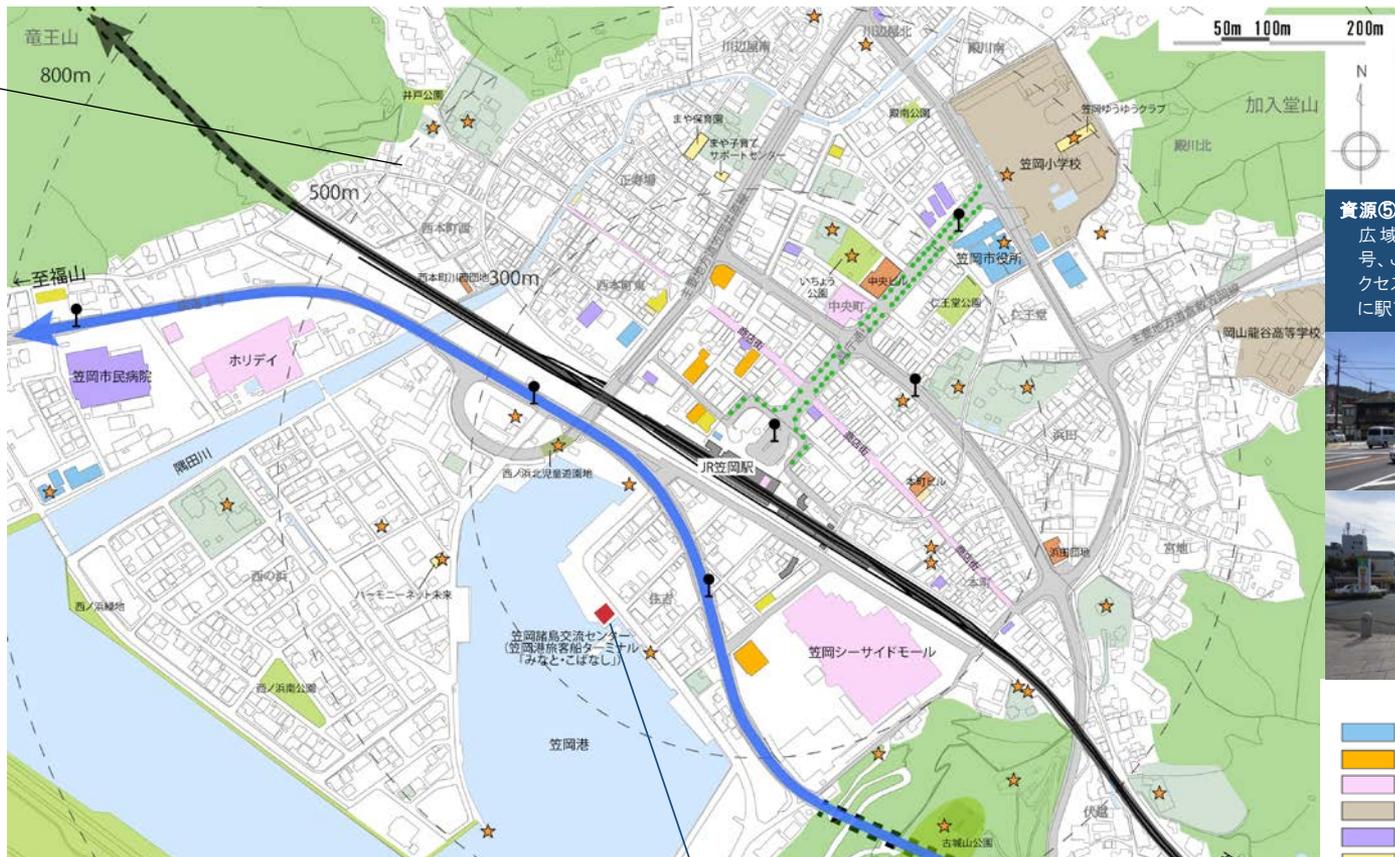
資源② 駅周辺は落ち着いたリラックスできる街の雰囲気、駅南側は中広域的にみると、笠岡ベイファームや大型公園施設など魅力的なオープンスペースが立地する



県庁通り・いちよう祭り



笠岡ベイファーム



資源⑤ 瀬戸内海沿いの都市の広域幹線道路である国道2号、JR駅があり、広域からのアクセスがしやすい立地環境(特に駅南側)



国道2号



駅前ロータリー

<凡例>

- 庁舎等
- 金融機関・郵便局等
- 日常購買施設
- 教育施設
- 医療施設
- 子育て支援施設
- 介護福祉施設
- 公営住宅
- サービス施設
- 宗教施設
- 公園
- 山林
- ★ 歴史文化資源

資源③ 駅南地区に新たな交流拠点である笠岡諸島交流センター(笠岡港旅客船ターミナル「みなと・こぼなし」)を開設、駅南口計画とともに活性化の兆し



外観

内観

笠岡諸島交流センター(笠岡港旅客船ターミナル「みなと・こぼなし」)

資源④ エリア内外の公共施設の老朽化・耐震化への対応として、施設の再整備・機能再編も考えられる

笠岡駅周辺の道路ネットワーク

- ・山陽地方を東西に結ぶ広域交通の主軸となる国道2号線が線路南側にある。
- ・現在整備中の国道2号バイパスが整備されることで、駅周辺の国道2号の渋滞緩和が進み、利便性の向上が期待される



この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の5万分の1地形図を複製したものである。(承認番号 平21 中規 第87号)

資料:国土交通省中国地方整備局岡山国道事務所

公共交通ネットワーク

・JR山陽本線のほか、笠岡市の路線バスは全てが笠岡駅前から発着しており、笠岡港からは笠岡諸島への旅客船・フェリーが運行されている

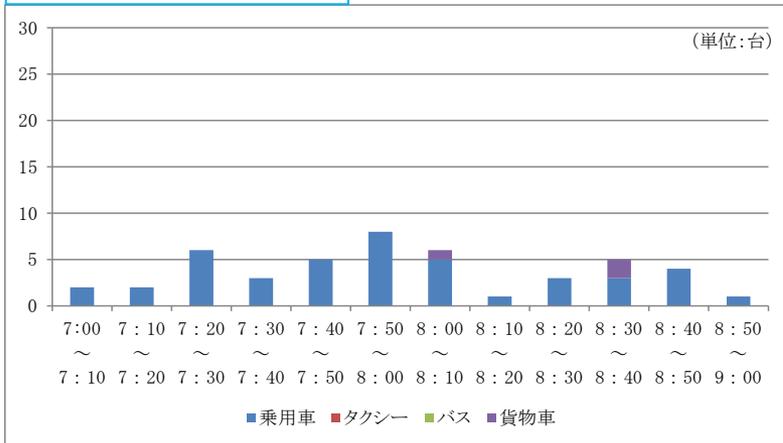


資料: 福山・笠岡地域公共交通網形成計画より

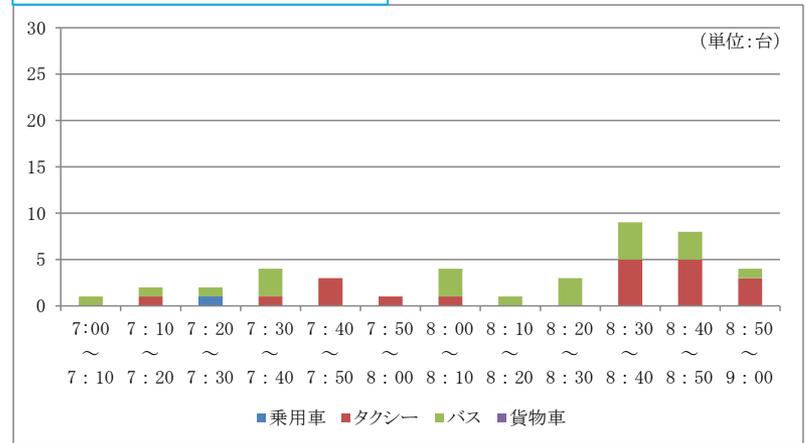
駅前広場の利用状況

- ・地点②、③'の発着台数は7:20～7:30の10分間が最も多く合計38台
- ・バス・タクシーは8:30～8:40の10分間が最も発着台数が多い

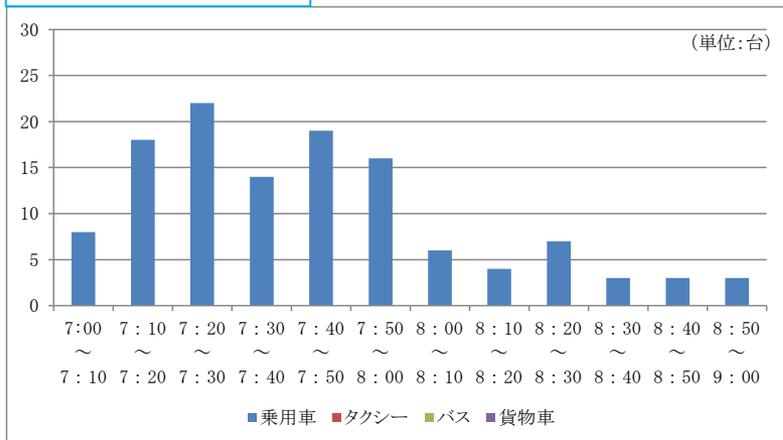
①駅前広場駐車場



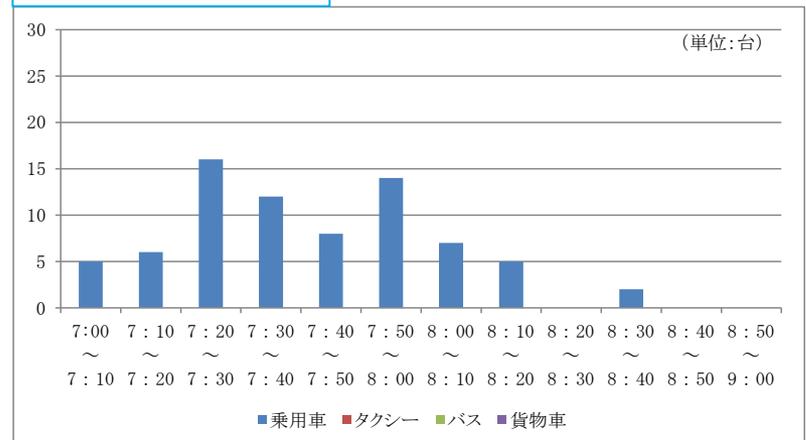
③バス・タクシー乗場



②一般車乗降場



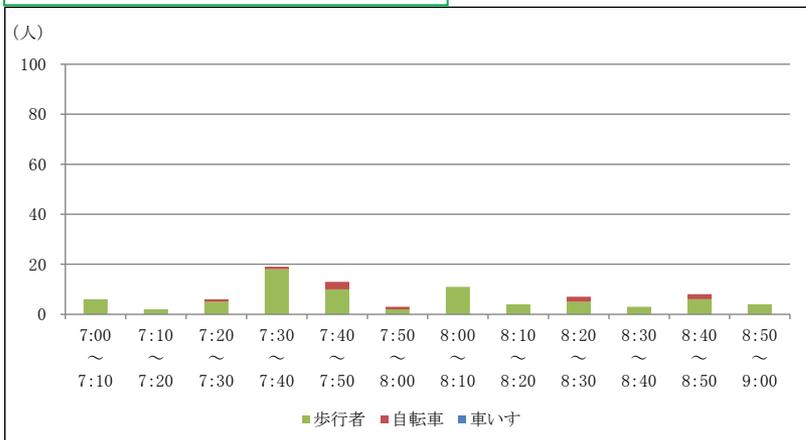
③'広場東側道路



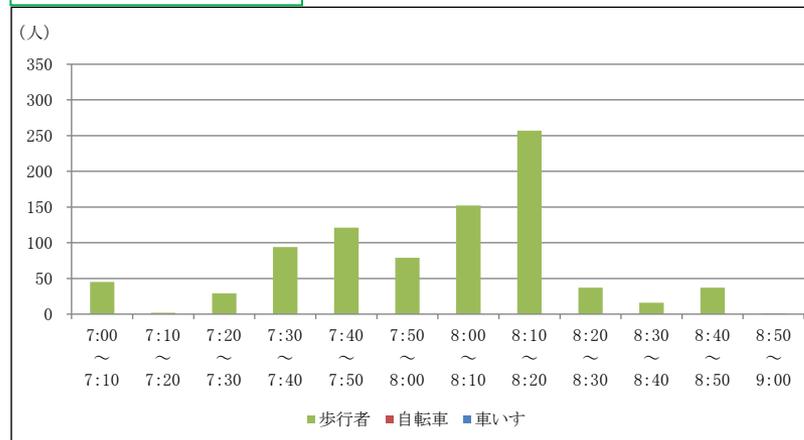
駅前広場の利用状況

- ・ 駅改札の入場は7:20～7:30、出場は8:10～8:20が最も多い
- ・ 地下道は南→北方向は7:50～8:00、北→南方向は7:30～7:40が最も多い

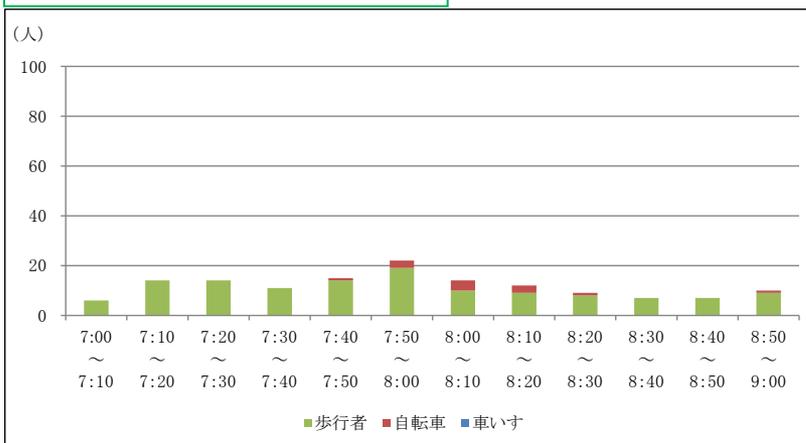
④地下道出入口(北→南)



⑤駅改札(出場)



④地下道出入口(南→北)



⑤駅改札(入場)

